

第209回新潟循環器談話会

日時 平成8年12月7日(土)
午後3時より
会場 新潟大学医学部
第5講義室

I. 一般演題

- 1) 急性心筋梗塞に対する intervention において, bail out stenting は何を変えたか?

中川 巖・小田 弘隆
伊藤 英一・三井田 努 (新潟市民病院)
戸枝 哲郎・樋熊 紀雄 (循環器科)

【目的】急性心筋梗塞に対する PTCA 時の acute occlusion や threatened closure に対する bail out 法としての perfusion balloon catheter 使用と stent 留置について, intervention におよぼす効果および早期成績を比較検討した。【対象と方法】1991年3月から1992年12月までに急性心筋梗塞に対する PTCA 時に, acute occlusion や threatened closure に対して perfusion balloon catheter を用いて治療した21例(P群)と, 1995年3月から1996年6月まで, 同じ状況で stent 留置を行った20例(S群)を対象にした。年齢, 性別, 冠危険因子(高血圧, 高脂血症, 糖尿病, 喫煙, 高尿酸血症), 入院時 Killip 分類, 病変枝数, IABP 使用, max CPK, intervention 時間(カテ室入室からCCU入室まで), X線透視時間, 1ヶ月後の total lesion revascularization (TLR) および生存率を2群間で比較検討した。【結果】年齢, 性別, 冠危険因子(高血圧, 高脂血症, 糖尿病, 喫煙, 高尿酸血症), Killip 分類, 病変枝数は両群間に差を認めなかった。IABP 使用(P vs S: 3/21 vs 6/20), max CPK (P vs S: 3639±2423 IU/L vs 3219±2143 IU/L) に差を認めなかった。intervention 時間はP群で152±37分, S群で123±18分と明らかに有意差を認めた ($p=0.0038$)。X線透視時間はP群で25±8分, S群で24±8分と有意差を認めなかった ($p=0.5813$)。1ヶ月後の TLR (P vs S: 0/21 vs 1/20) および生存率 (P vs S: 21/21 vs 20/20) は両群に有意差を認めなかった。【総括】心筋梗塞に対する PTCA 時の bail out として, stent 留置は intervention 時間を短くする。しかし, stent 留置は, X線透視下に正確な位置決めが必要なため, 透視時間は perfusion balloon catheter と差を認めなかった。また, 両群の

早期成績に差は認めなかった。

2) 当院における PTCA の成績

田辺 恭彦・伊藤 正洋 (県立新発田病院)
鈴木 薫・熊倉 真 (内科)

'95年12月より待機的 PTCA を開始し約1年が経過したので初期成績を紹介する。

【対象】'95年12月より'96年11月15日までの約1年間に当院にて PTCA を施行した延べ104例(待機的 PTCA: 78例, 急性心筋梗塞(AMI)に対する緊急 PTCA: 26例), 121病変(1枝病変: 79例, 2枝病変: 23例, 3枝病変: 2例)を対象とした。平均年齢は66歳であったが, 75歳以上の高齢者の割合が待機的 PTCA 例の8.9%(7/78)に対してAMI例にて34.6%(9/26)と大であった。PTCA の成功は QCA にて実測50%狭窄以下までの改善, 再狭窄は QCA にて実測50%狭窄以上になったものと定義した。

【結果】待機的 PTCA 78例中76例(患者成功率97.4%), 95病変中93病変(病変成功率97.8%)に成功した。(不成功例は guide wire 不通過1例, 拡大不良1例)ステントは22病変(23%)に使用した。PTCA 施行中に threatened closure にて3例に IABP を使用したが, カテ室退室後の急性冠閉塞や亜急性冠閉塞は皆無であった。1か月以内の周術期死亡およびQ波梗塞の発生は認めなかったが, 1例(77歳男性)がコレステロール塞栓症にて3か月後に死亡した。

AMI 症例は26例全例で PTCA に成功したが, 1例(82歳男性)で心原性ショックから脱せず PCPS, IABP 使用にもかかわらず救命できなかった(AMI 急性期死亡率3.8%)。

3~6か月後の確認造影を終了した73病変のうち29病変に再狭窄を認め(39.7%), 21病変(28.8%)に再血行再建術を要した。再血行再建術は待機的 PTCA 症例の23.2%に対して, AMI 症例で47.1%と大であった。

【結語】当院での PTCA の成績は, 阿賀北地区の心臓救急を担う中核施設として満足できうる成績であった。今後は合併症の発生のないような慎重な操作が重要であると考えられた。